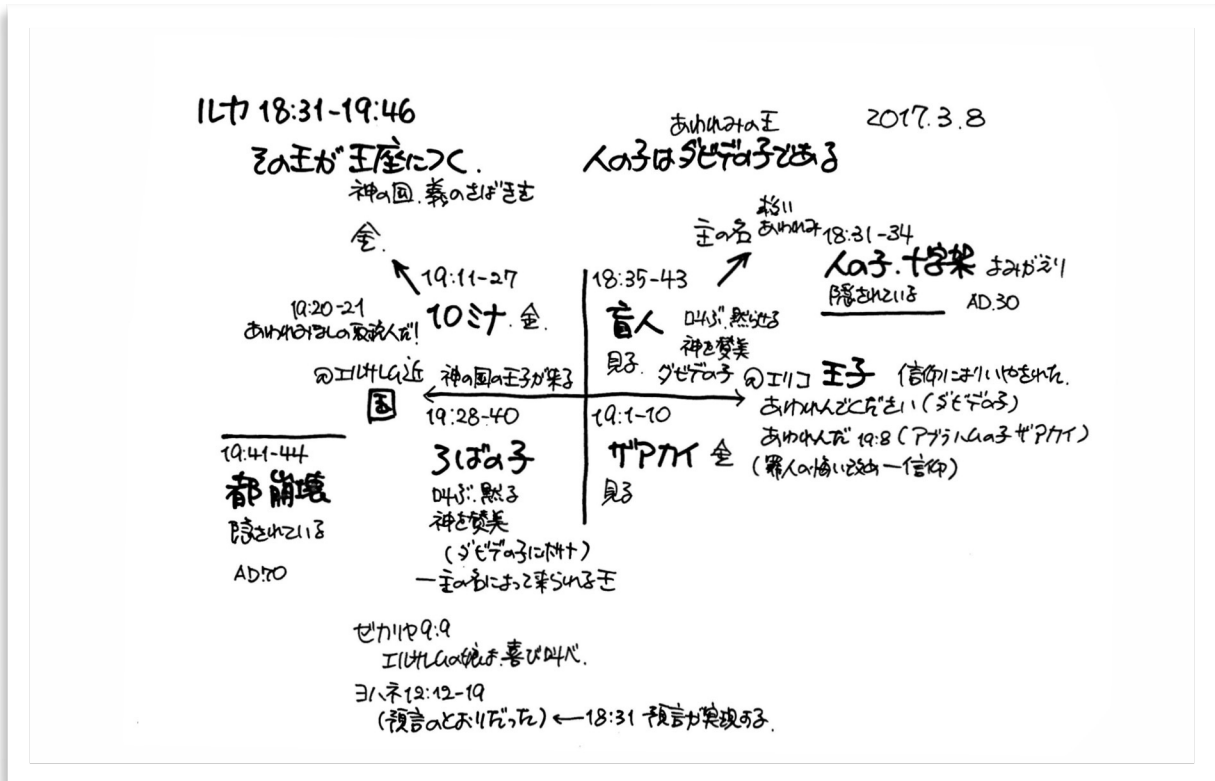




ルカ福音書18:31-19:46



ルカ福音書の18章31節から。「エルサレムに向かっていきます」というところで新しい段落が始まっているところです。19章の44節まででいいかと思うのですが、エルサレムに入っていくというところです。

段落の最初に、(18:31-)「人の子は預言者に言われている通りに十字架にかけられよみがえります」ということを話して、エリコの話に変わっていきます。盲人が見えるようになり、(19:1-)ザアカイの話があって、(19:11-)10ミナを与えてしもべに裁きをするという話と、(19:28-)ロバの子に乗ってエルサレムに来ること。それでエルサレムに近くになったところで都を見てその都のために泣くという話で終わります。

この出だしの人の子が十字架にかかってよみがえりますということと、エルサレムの都が崩壊し崩されますということが、並行して見なさいよと言われているしるしです。(18:31-)「このことばは隠されていて理解出来ませんでした」とあり、こちら(19:28-)には、「目から隠されています」ということですね。(18:31-)ですからまだ十字架にかかってよみがえらご自分のからだ、神殿が3日目に建て上げられるということは隠されていきました。それと、(19:28-)都が裁かれて神が来て新しい都を作るということも隠されていきましたということで、こちら(18:31-)がAD30年の十字架と復活の預言。こちら(19:28-)はAD70年の時の新しい創造の完成の日の話をして、これがエルサレムに向かっていくということの目的だということが分かると思います。その大きなくりの段落だというしるしがここにあるかと思えます。これがそういう意味でイエスの預言なのですね。

今まで人の子について預言されたことが実現される。その人の子が今度預言している。はっきりと預言しているところで、この段落が始まる。そして、段落が終わるといふところまで。

盲人が見えるようになり、ザアカイが赦され救われ、10ミナの話があり、ロバの子に乗って入るといふところに、また共通点がそれぞれあるでしょうといふことです。

まず最初のこの2つ。「ダビデの子よあわれんでください」といふ、「見えるようになる」「見えるようになる」「見えるようになる」それで「信仰によって癒される」といふことが、ここに(18:35-43)ありますね。これはエリコに近づいたところまで。

こちら(19:1-10)もエリコの町ですね。「ザアカイが見ようとして」、この見ようとしてが、この話の終わりの(19:10)「失われた人を捜して救うために来た」と同じなわけです。イエスがどんな方かを探る。こちらも探る、探す、探してみたいな感じですね。小さいのだけれども、わざわざ見るといふことをして、呼ばれて、ザアカイが「財産の半分を貧しい人に施し、だまし取ったものを4倍にして返します」といふと、「救いがこの家に来ました」とイエスが彼に言います。元々この取税人にはあわれみがなくて、貧しい者から搾取するような人だといふことですね。その人が悔い改める行動をしますといふ宣言をするので、その言葉に対して「救いが来ました、アブラハムの子である」といふふうに宣言してもらわけですね。

ここ(18:35-43)に、盲人が見えるようになるといふのが、信仰によって癒されたとあります。このあわれみのダビデを信じるといふことですが、(19:1-10)ザアカイは自分があわれむ人といふことをやりますといふことが、信じているといふ行動になるのですね。それがこの2つの共通点です。「エリコ」「あわれんでくださいといふダビデの子」「あわれみましたアブラハムの子にふさわしい」といふことで、この悔い改めるといふ信仰を表しているといふこの共通点がエリコの場所でありました。

(19:11-27)エルサレムの近くに今度行くわけですね。ここで「続けて一つのたとえを話された」といふ風に言っていますから、エルサレムの近くのエリコに入って、このザアカイの話があった後に、続けて話をしたといふことですので、このザアカイの(19:1-10)話と、この10ミナ、5ミナの話は続けているといふことにもなりますので、続けて見ないといけないといふところですね。

「神の国がたちまち現れると思っていたので、この話をしました」といふことで始まります。たちまち来るといふのは、さばきもなく急に王様が来て大勝利みたいなことを期待していたのかといふことですが、その前に裁かれますよといふようなことを話しているような形になっていますね。王位を受けて帰るためだった。このしもべたちは、王になってももらいたくなかったといふところが、14節にあります。「帰ってきた時に忠実な者に与えて、この計算の細かい厳しい方で恐ろしかったので、あなたはお預けにならなかったものをも取り立て、お撒きにならなかったものをも刈り取る方ですから」。厳しい裁きをする人間だといふふうに考えているといふのが、この1ミナを取って何もしなかった人といふことを言われるんですけど、ここのところは、ザアカイがやっていたことのようなことなのかなあといふように思います。この厳しい裁きをして金を取っていくみたいなの。あわれみの王様が来たのに、あわれみのない取税人であるかのように取り扱っているといふのがこの段落ですね。そして、この話をした後に(19:28-40)さらにエルサレムに向かって行って、ろばの子の話があります。このろばの子の話は、盲人の話(18:35-43)と似ています。盲人の話の中に、「ダビデの子、私をあわれんでくださいと叫びます、黙らせようとするけど叫びます。これを見て民はみな神を賛美する。」といふのがこのストーリーです。ろばの子の話は、「ろばの子に乗って

入ってきます。神を賛美します。主の名によって来られる王を賛美します。それで、ある人たちが黙らせてくださいと言うんですけど、黙れば石が叫びます」と。黙らせようとしても叫びます。黙らせようとしてもダビデの子よあわれみたまえと言って賛美します。この2つの箇所が似ていることが分かるかと思います。

他の福音書で見るとダビデの子にホサナという風に歌うところですね。ここ(ルカ福音書)に書いてないんですけど、なぜ書いてないんだろうなということなんですが、ダビデの子にホサナのところに、「主の名によって来られる王に」というふうに書いてあります。ゼカリヤの書かれてた「エルサレムの娘よ喜び叫べ、ろばの子に乗ってこられる」というところなんです。この預言の成就しますという箇所と、盲人が見えるようになって神を賛美するというのは、似ていますよね。主の名、あわれみのダビデの子である。あわれみの王を褒め称える。あわれみの王が入ってくる。主の名によって来られる。平和をもたらす柔和な王を褒め称える。この(18:35-43)(19:28-40)主の名が現れているという方と、(19:1-10)(19:11-27)ザアカイと10ミナの方は金のお話をしていますね。この主の名を求めるのか、この世の富を求めるのかという戦いをしているということがこれでも分かるかと思います。

こちら(18:35-43)(19:1-10)は、人の子はダビデの子、あわれみの王であるという方ですね。(19:11-27)(19:28-40)その王が王座についてこの国を始めます。さばきに來ます。国が始まります。新しい都が始まるんですと。それが神の国が現れるということなんですというこの2つですね。こちら(18:35-43)(19:28-40)は人の子は誰なのか。こちら(19:11-27)は(19:28-40)その人の子が來ます新しい国を作ります。ということで、この18章から19章10節までと19章11節からのところが分かれていると思います。このエルサレムに入って始まるこの裁きの日ですね。十字架にかかって、いよいよ新しい創造が決定的に始まりますというルカ福音書の最後の段落のスタートのところというのが18章から19章のところなんです。